ISSN 0917-7604

# 東光原

熊本大学附属図書館報

Kumamoto University Library Bulletin, No.22, Feb. 1999

永青文庫蔵雑記類より（三）
● 八代妙見の霊符

特別企画：大学改革と図書館(1)
● 事務一元化と事務統合情報システムの構築について

永青文庫蔵熊本大学附属図書館寄託
『絵入太平記』より

永青文庫蔵雑記類より㈢

# 八代妙見の霊符

西田耕三

不慮の死をとげた細川宗孝の跡を継いだ弟の細川重賢（1720－1785）は、延享4年（1747）から天明5年（1785）まで、40年近く熊本藩第8代藩主として、さまざまな改革を行ない、中興の祖といわれている。政治家としての功績だけでなく、28歳まで部屋住みの自由な身であったということもあろうか、多方面にわたる趣味によって熊本藩文事の中心でもあった。

重賢と他大名旗本たちとの交流は、永青文庫蔵『重賢公御代御代筆扣』によって直接知ることができる。この『御代筆扣』は、宝暦8年（1758）から天明3年（1783）までの間の重賢の書簡約600通を後に編集したもので、雑記というには些か憚りあるものの、雑記的で面白い内容を含む。書簡の話題はほとんどが広い意味での文事（俳諧、漢詩、謡や舞、蹴鞠、本草等）に関わるものである。今回はその中から、酒井山城守（松山公子）あての書簡を紹介してみよう。

酒井山城守忠起（ただおき）は、出羽松山藩（山形県飽海郡松山町）の藩主酒井忠休（よし）の養子であった。松山公子は松山藩の公子という意味である。『御代筆扣』は11通の酒井山城守あての書簡を収めている。宝暦8年（1758年。重賢39才、忠起24才）1通、同9年6通、同10年2通で、内容は、忠起から鳥禽を送られたことに対する礼、小鼓借用の願いの承諾、俳諧や漢詩の会に関する消息、馬術の件などである。重賢と忠起の間に雅交があったことは他の文芸資料にもみえる。忠起は15才年長の重賢を文事の先輩とみて慕っていたのであろう。ここで書きぬいておきたいのは、最後となる明和4年（1767年。重賢48才、忠起33才）の2通である。

○明和4年3月3日

御状拝見致し候。弥々御障り無く珍重の御事に候。旧年三月以来、脚気浮腫にて御勝れ成られず候処、此節は御快方に候由賀し奉り候。然れば幣邑の銅板妙見霊符御所望の由、委曲御紙表の趣承知致し候。則ち八代へ申し遣わし候間、追って是より御意を得べく候。恐惶謹言。

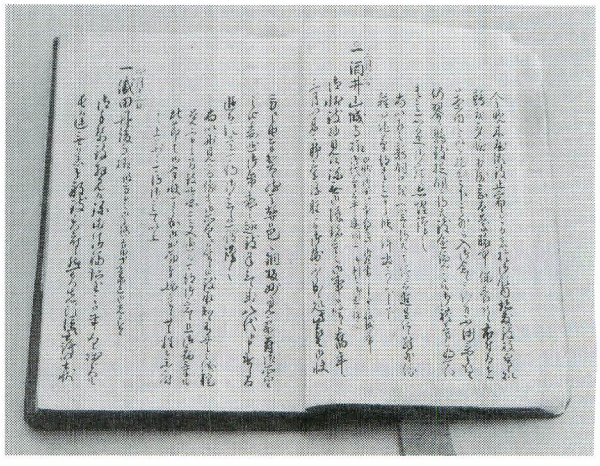
尚以って、妙見尊像も御所望に御坐候由、承知致し候。有無の儀、聢（しか）と覚え申さず候間、吟味致し是又追って御意を得べく候。且つ、御病気も此節は御全快成らるべく、御出勤珍重に奉り候。程無く参府の上、万々御意を得べく候。以上。

○明和4年5月朔日

手紙を以って啓達致し候。弥々御障り無く、御病気も段々御全快成らるべく、珍重の御事に御坐候。然れば先達て仰せを蒙り候妙見霊符並びに尊像も出で候由にて、此節国許より差し越し候に付き、進呈致し候。銅板霊符と仰せ下され候に付き、吟味致させ候処、已前は銅板にて候得共、戦国の時分紛失、其後加藤右馬允銅板の写し木板寄附の由申し伝え、今、右の木板を以て相用うる由に候。書余面謁の節を期し候。不悉。

明和3年3月以来、脚気浮腫に悩んでいた酒井忠起は、おそらくその平愈を願ってであろう、明和4年八代妙見の銅板霊符と妙見像を国許にいた重賢に求めてきた。重賢は八代へ指示を出し、間もなく江戸へ向かった（3月5日に熊本を出発して、4月9日に江戸着）。そして、やがて国許から送ってきた霊符と尊像を忠起に送った。ただ、銅板の霊符は戦国の時に紛失し、現在はその写しを木板にしたものを用いているので、それを送るという。銅板の写しを木板にした「加藤右馬允」とは、おそらく八代城代を勤めた加藤正方（1580－1648）のことであろう。

八代妙見の木板霊符と妙見像を得た酒井忠起は十分



『重賢公御代筆扣』明和4年の条

に満足したであろうが、一月あまり後の６月９日、この世を去った（『寛政重修諸家譜』巻66による）。松山藩では、同年７月３日、忠休の実子忠崇（たか）が嫡子となり、天明７年（1787）、忠休の跡を継ぐことになる。

八代妙見の霊符のことは、宝永５年（1708）に出版された『鎮宅霊符縁起集説』に記されている。この本は、大正４年に三田村鳶魚によって『信仰叢書』（国書刊行会）に収録され、さらに平成５年、ゆまに書房から再刊されている。それによると、北辰尊星（北極星、妙見菩薩と習合）の霊符は、漢の孝文帝が劉進平という人から伝授されて世に広まり、日本へは、推古期に百済の聖明王の子琳聖太子が伝えたという。琳聖太子の渡来の地が肥後八代の白木山神宮寺だったのである。さらにこの本は、霊符の彫版の最初は天平12年だが、その版はもうないこと、現在の版は南朝正平６年（1351）に懐良親王が神宮寺に納めたものであること、妙見は玄武（亀蛇合体）であることを記し、神宮寺の歴史、霊符の霊威・秘法等に及ぶ。黄檗僧妙幢浄慧という人の『儒釈雑記』（写本、宝永４年序）巻45に抜粋引用されているし、『信仰叢書』の三田村鳶魚「緒言」にも「東京に現存せる亀塚庚申塚は元禄享保間のもの最も多く、其の前後のもの甚だ尠きは、信仰展転期を證せんに便あらんか」とあるから、一時期大いに流行した信仰であろう。亀蛇はいうまでもなく八代妙見祭のガメである。

（にしだ　こうぞう　文学部教授　国文学）

# 重要文化財「阿蘇家文書」をホームページで公開中！

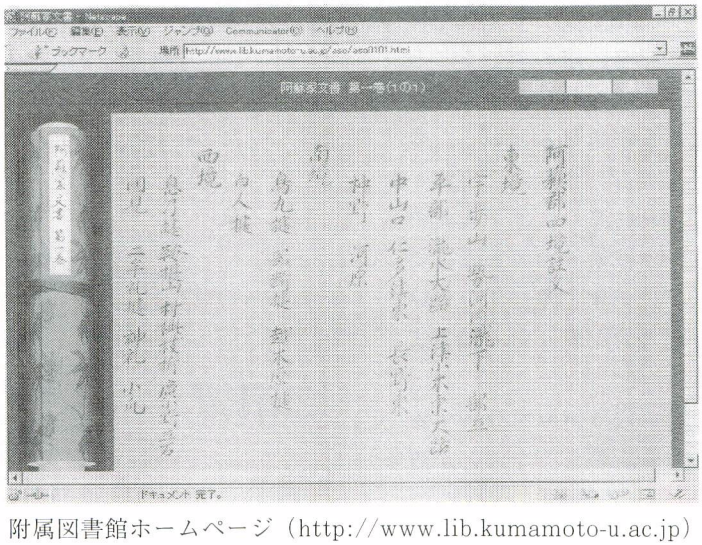
「阿蘇家文書」は阿蘇神社宮司阿蘇惟友氏旧蔵の古文書(1,047点)で、この内、中世文書34巻(304通)写本36冊は昭和62年に国の重要文化財に指定されました。

これまで一般利用者の目にほとんど触れることのなかったこの貴重な資料をデジタル画像化し、インターネットを介して学内外からの閲覧が可能になりました。

画像データは、附属図書館のホームページから、図書館利用案内のメニューを選び、コレクションのページの中から阿蘇家文書をクリックし、解説文の冒頭にある阿蘇家文書（画像）ボタンをクリックすることでご覧いただけます。

平成11年１月現在、第２巻までの公開ですが、今後ともデータの蓄積とサービス内容の充実を図っていきますので、どうぞお楽しみに。

（情報サービス課　電子サービス係）



附属図書館ホームページ（http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp）

特別企画：大学改革と図書館（1）

# 事務一元化と事務統合情報システムの構築について

福　冨　正　彦

## 1．はじめに

文部省では、「文部省行政情報化推進計画(平成７年４月24日付行政情報化推進本部決定)」に基づき、平成７年度を初年度として総合的・計画的な省内の情報化を推進している。さらに、行政情報化推進基本計画の改定（平成９年12月20日閣議決定)」を受け、行政サービスの質的向上の推進、効率化・高度化された行政の実現、文部省と国立学校等とのネットワーク整備等を盛り込んだ、平成10年度を初年度とする新たな５ヶ年計画を定めて実施しつつある。

国立学校においても、この推進計画を目標として学内外における行政事務の情報化・高度化を図るべく努めているころである。また、国立学校では、国民が期待する迅速で効率的な行政サービスを確保するため、事務一元化・事務集中化がこれと併せて進められている。

これらの現状を踏まえながら、事務一元化と事務情報化の関わりに注目した新しい国立学校行政事務の情報化システムの在り方について述べてみることとする。

## 2．事務一元化は発想の転換から

事務一元化は、事務をどう一元化するかではなく、現在または将来、国立学校行政事務に求められることは何かを明確にし、従前の概念に捕らわれない、新たなルール、新たな行政サービスを創造するといった発想の転換が必要であると考えている。さらに、事務一元化に対応した事務情報化を成功に導くには、最新の情報処理技術や情報ネットワーク技術等の導入だけでなく、仕事の形態が時代とともに変化・多様化していることを一人一人が認識し、総合的な取り組みが望まれる。

特に、企業や他の行政機関等の取り組みを分析すると、これからの仕事の変革には、次のようなことが想定される。

①組織のダウンサイジング化が進み組織のフラット化が進む。

②情報の共有化・流動（流通）化・オープン化が進む。

③職員の意識改革が求められ、権限の委譲と責任の明確化が進む。

④伝統的な組織体系が変化し、情報によって組織が動くようになる。

⑤業務の再構築によりモバイルコンピューティング化が進む。

⑥内部・外部の点検評価が直ぐに反映できる仕組みが必要となる。

⑦職員一人一人の事務生産性の向上と高品質化が求められる。

## 3．事務一元化のための四つの柱

事務一元化は、行政サービスの縮小のもとに実現するのであれば何の意味も持たない。勿論、事務の大半を事務局・学生部に集中するのであるから地理的・物理的なサービスには限界もある。しかし、これらのネガティブ要因を学内情報ネットワークを積極的に活用し、サービスの方法･形態等が変わるものの情報的側面（行政情報統合サービスシステムの実現等）から行政サービスの推進･向上に貢献できるものと信じている。勿論、情報システムだけで対応できるものではなく、併せて総合的な見直しを図る必要がある。

事務一元化により行政サービスを維持し、さらにこれを拡大していくためには、Fig. 1 に示す四つの柱について改革・改善を図らなければならない。

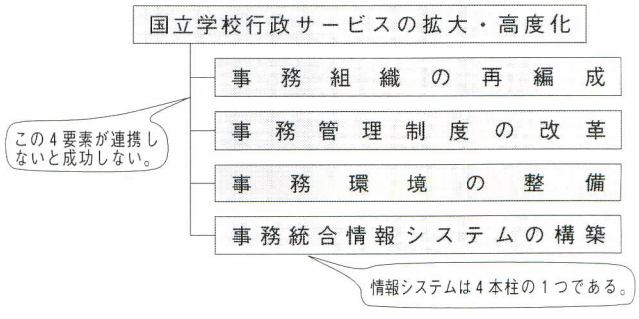



Fig 1．事務改善の構成要素

## 4．事務一元化は情報の一元化

国立学校では、大学を中心に精力的に事務一元化・集中化が進められている。限られた人員で合理的･効率的な行政サービスを行うためには、事務を一元化（集中化）する他に、事務処理上で発生する情報も一元化し、システマティックに連携して処理することが必要である。また、情報を集中化・一元化することで、教官・学生及び各学部等に対する情報提供等が一元的に行え、行政サービスの高度化・多様化に対応できる体制を確立することができる。

この場合の情報は、業務（行政）情報の他に管理（統計）情報、知識（ノウハウ）情報を含めて広い範囲の情報が対象となる。これらの一元化された情報を有効活用するためには、全員で共有できる体制（システム）を構築することが必要である。これは、究極的には全教職員及び学生による「電子コミュニティの形成」を意味している。

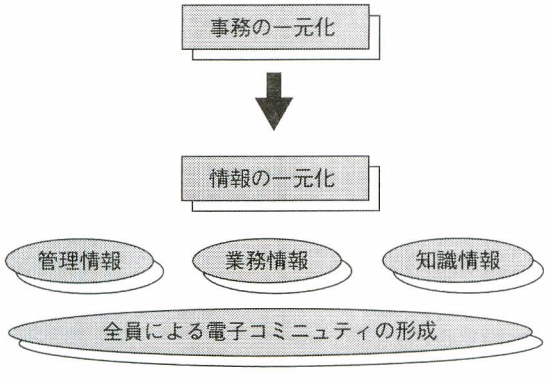



Fig 2．情報共有概念図

## 5．事務統合情報システムの概念

事務統合情報システムの基本概念は、業務系システムと情報系システム及びそれを連携するネットワークシステムから構成され、エンドユーザ（利用者）からみて一つの融合されたシステムとして活用できることが最も重要なことである。今後、事務統合情報システムを構築するに当たっては、明確な行政事務情報化への理念（コンセプト）を持つとともに、利用者にとって技術的負担をかけず容易に受け入れられるシステム（特にユーザインタフェースの充実した）を追求しなければならない。

## 6．事務統合情報システム構築の要件

事務統合情報システムの構築においては、次の事項を基本要件として取り組む必要がある。

### ①将来の技術動向、利用者ニーズの変化を見越した情報システムを構想し、そのための柔軟で拡張性あるシステムの構築

事務統合情報システムは、システムの柔軟性・拡張性を確保するため、特定のベンダー（又はメーカー）に依存しないハードウエア・ソフトウエアで整備することを基本とし、クライアント・サーバ型システムとして仕様を統一する。

### ②組織の共同作業を支援する「コラボレーションシステム」として構築

各国立学校では、電子コミュニケーションを支援するソフトウエアとしてグループウエアを導入し、電子メール、電子掲示板、スケジュール管理等に利用されている。本来グループウエアは、「グループ（組織）を構成する複数の人間（あるいは部署）の共同作業を支援する、コンピュータとネットワークを駆使した、コラボレーション（共同作業）システムである。」と一般的に定義されている。また、グループウエアの選定に当たっては、業務システムとの連携と利用者が容易に参加できるユーザインタフェースの充実が重要なポイントになる。

### ③全員による情報の共有化

行政事務として考えられるあらゆる情報（業務情報・管理情報・知識情報）を共有化するための電子キャビネット（ファイルサーバ）の設置が必要となる。電子キャビネットは、各部局を基本単位とした階層構造の設置形態とし、基本的にはプライベートな情報以外はすべて電子キャビネットに共有化する。勿論、データの機密保護等が前提条件になることは言うまでもない。

### ④パソコンを知的事務用具とした「エンドユーザコンピューティング」の実現

クライアント・サーバシステムは、エンドユーザ（利用者）からみれば、まさにエンドユーザコンピューティングである。これは、サーバが持つ情報を簡単な手続きでパソコンに取り込み、パソコンの各種ツールを使って加工することにより、利用者が必要とする資料等を自由に作成できるものである。

このように、パソコンを知的事務用具とした、利用者主体のコンピューテイング環境を実現することが、これからの統合情報システムの一つの方向である。

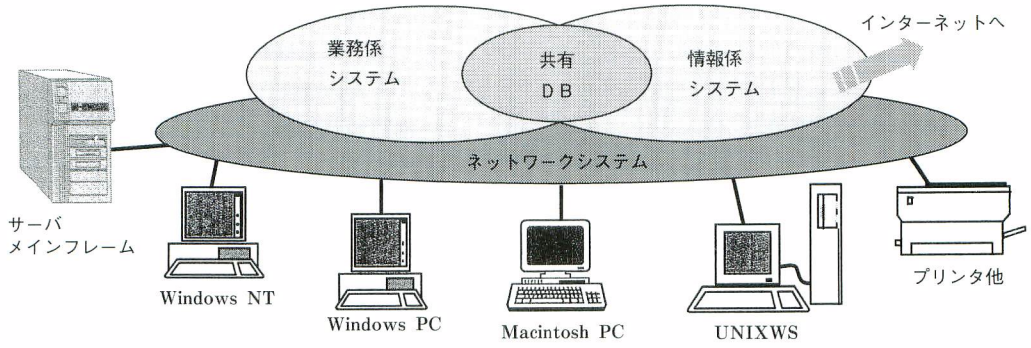



Fig 3．統合情報システム概念図

⑤業務系システムと情報系システムの統合化

コンピュータの利用形態は、情報の処理から情報のサービス（提供）へとその適用範囲が拡大している。現在の形態は、それぞれ個別にシステム化されているので、システム間の情報交換が面倒で、データの二重入力をせざるを得ない場合が少なくない。このため、例えば情報発信のためのホームページの作成・維持等においても、既に収集されているデータが活用できず、再入力等の新たな業務負担が生じたりする。事務統合情報システムは、これらを統合化し業務処理をしながら最新の情報が自動的にWeb上に発信（又は収集）できることを可能とするものである。これにより、常にリニューアルされた情報を提供でき、情報サービスの拡大・高度化と省力化の両方を実現することができる。

⑥的確で精度の高い行政判断を支援するシステムの構築

組織をスリム化し、合理的かつスピーデイに行政事務を推進するには、これまでのボトムアップ方式からトップダウン方式へと事務のシステムが段階的に移行していくことが求められる。このためには、管理者が、最新の情報を基に的確な行政判断ができる情報システムを構築することが必要となる。これは、現場の業務処理で発生し蓄積されたデータ（データベース）を、常時、管理者のパソコンから検索し、その情報をグラフ表示したり統計処理した行政判断情報を提供したりするもので、意志決定の迅速・高精度化を図る「データウエアハウス」の概念にも相当する。

⑦Windows，Mac，UNIX等の特定のマシンに依存しない機種無依存型システムの構築

将来的には、コンピュータのハードウエア・ソフトウエアのアーキテクチャは統一される方向に進み、相互互換が保証される時代がくると考られる。しかし、現段階においてシステム構築に当たっては、Web連携を基本とした機種無依存型システムを構築することが賢明である。

⑧教官・学生への行政情報サービスの充実・拡大

事務情報化は、行政事務の合理化・省力化のためにだけ行うのではない。基本は、より合理的で充実した教育・研究支援サービスを実現するために、事務の合理化・情報化・高度化を図るものである。しかし、データの発生源入力やワンライティング化、ネットワークによる情報提供等の基礎となる履修登録、成績報告、各種申請等のデータを、教官・学生にパソコンから入力してもらうことが必要となる。このことについては、教官・学生の理解と協力を得なければならない。

⑨行政情報として多様な情報(マルチメディア情報)の提供

近年の出版は、マルチメディア化を念頭にした電子出版が盛んである。コンテンツ（内容）も文字の他に音声、映像、図形等と多様であり、さらに指定されたキーワードについてはハイパーリンクが可能で、新たなコンテンツの展開ができるようになっている。事務統合情報システムにおいても、マルチメデイアに対応して多様なメディアの情報提供を考慮すも必要がある。当面は、大学行政事務向けの電子出版物（CD-ROM中心）のネットワーク提供を行い、利用動向を見てコンテンツやシステムの充実を図る必要がある。このためには、CD-ROMチェンジャーの装備や電子ジャーナルの利用等において図書館と連携する必要性が出てくる。

⑩ソフトウエア・ハードウエアは国際標準を追求し、導入するアプリケーションは連携可能なものを選択

文部省における事務システム（新汎用システム）の開発は、システム開発環境を統一し共通のプラットフォームのもとに行っている。したがって、各国立学校のシステム開発においても、この共通プラットフォームを尊重することが、国立学校間のソフトウエア流通の推進に大変望ましいことである。また、各学校でソフトウエアを選択する場合には、この共通プラットフォームを尊重しつつ、アプリケーション間の連携、ソフトウエアの流通性、共用データベースのアクセス性等を考慮し、国際標準を追求することが将来のシステムの発展に重要であると考えている。さらに、ワープロ、表計算、DBMS、プレゼンテーション等のパソコンソフトウエア（特にビジネスユース）は、今後、統合化の方向に進んでいくと考えているが、パソコンソフトの選定に当たっては、プログラム間の連携（OLE:Object Linking and Embedding）を考慮することも重要なポイントとなる。

⑪バソコン操作環境の一体化・ビジュアル化

パソコンの操作を標準化し操作効率を上げるには、業務系システム、情報系システム及びパソコンの各種ツール等の操作環境を一体化・ビジュアル化し、利用者が直感的に操作できる環境を整える必要がある。このためには、共同作業の基盤ソフトウエアであるグループウエアに、このようなカスタマイズ機能が備わることが望ましい。既に一部のグループウエアでは実現しているが、今後出荷予定の第二世代グループウエアの基本機能として、カスタマイズ機能が標準的に装備されると予定である。

以上の要件を基本として、事務統合情報システムの構築を図ることを提案したい。

**7．最後に**

本稿では、事務一元化と事務統合情報システムとの関係について述べたが、大学図書館も例外ではないと考えている。図書館においても当然のことながら、事務の合理化・集中化を進めなければならない。この場合に考えなければならないことは、このことによって図書館サービス（特に質的サービス）の低下があってはならないことである。また、近年、図書館の電子化・電子図書館化が進んでいるが、図書館サービスを高度化しながら業務の合理化を進めるには課題も多いと考えられる。しかし、図書館職員の創意と工夫、そして熱意と努力で達成は可能であると考えられる。皆さんのチャレンジを期待したい。

（ふくとみ　まさひこ　経理部情報処理課長）

# 特殊資料展を開催

附属図書館では、11月1日(日)～3日(火)の3日間、大学祭（熊粋祭）の日程にあわせて「特殊資料展」を開催した。15回目を迎える今年の展示会は「細川家資料にみる近代法への歩み」と題し、熊本藩における近代的自由刑の誕生と判例の展開をテーマに附属図書館所蔵の「永青文庫」から32点の資料が紹介された。現行法の刑罰制度の重要な地位を占めている徒刑制度（自由の剥奪を内容とする刑罰）を日本で初めて制度として採用したのは熊本藩と言われているが、展示資料は、その徒刑採用の法典である「御刑法草書」を始めとして、刑事判決録、供述調書などで構成されたもの。11月1日(日)には、山中至熊本大学法学部教授による「熊本藩のつみとばつ」と題した公開講演会も開催さた。期間中、市民約270名の入場者が熱心に見学、毎年この時期に公開される貴重資料を目にすることを楽しれみにしているとの声も多かった。

（解説:http:／／www.lib.kumamoto-u.ac.jp／exhib02.html）

# 利用できるオンラインジャーナルのタイトル数が増えました！

現在購読中の雑誌うち附属図書館のホームページ(http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp) 上で、既に提供しているＥＥＳ(Elsevier Electonic Subscription：エルゼビア電子購読契約)の45タイトルに加え、64タイトル(別表リスト参照)のフルテキストデータが利用できるようになりました。

また、今後追加するタイトルにつきましても、ホームページ及び本誌で随時お知らせ致します。

Online Journals List(アルファベット順)1999.1.22現在

1. Acta Neuropathologia
2. Algology,Mycology & Protozoology Abstracts (Microbiology C)
3. American Journal of Physiology : Cell Physiology
4. American Journal of Physiology : Endocrinology and Metabolism
5. American Journal of Physiology : Gastrointestinal and Liver Physiology
6. American Journal of Physiology : Heart and Circulatory Physiology
7. American Journal of Physiology : Lung Cellular and Molecular Physiology
8. American Journal of Physiology : Regulatory, Integrative and Comparative Physiology
9. American Journal of Physiology : Renal Physiology
10. American Journal of Physiology : Advances in Physiology Education
11. Archiv der Mathematik
12. Archives of Toxicology
13. Brain
14. British Journal of Radiology
15. Cancer Immunology, Immunotherapy
16. Cell and Tissue Research
17. Chromosoma
18. Classical and Quantum Gravity
19. Commentarii Mathematici Helvetici
20. Communications in Mathematical Physics
21. Computer Journal
22. Contributions to Mineralogy and Petrology
23. Current Eye Research
24. Development Genes and Evolution
25. Diabetologia
26. Differentiation
27. Drug Metabolism and Disposition
28. Electrical Engineering (Archiv fur Elektrotechnik)
29. EMBO Journal
30. European Journal of Applied Physiology and Occupational Physiology
31. European Journal of Biochemistry
32. European Journal of Clinical Pharmacology
33. Experimental Brain Research
34. Inflammation Research
35. Journal of Membrane Biology
36. Journal of Micromechanics and Microengineering
37. Journal of Neurology
38. Journal of Petrology
39. Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics
40. Journal of Physics A: Mathematical and General
41. Journal of Physics: Condensed Matter
42. The Lancet
43. Manuscripta Mathematica
44. Mathematische Annalen
45. Mind
46. Mineralium Deposita
47. Molecular Pharmacology
48. Neuroradiology
49. Nonlinearity
50. Nucleic Acids Research
51. Pflugers Archiv - European Journal of Physiology
52. Pharmacological Review
53. Physics Education
54. Physics in Medicine and Biology
55. Planta
56. Proceeding : Biological Sciences (The Royal Society)
57. Proceeding : Mathematical, Physical and Engineering Sciences

58. Proceedings of The London Mathematical Society
59. Proceedings of the National Academy of Sciences
60. Reports on Progress in Physics
61. Shock Waves
62. Superconductor Science and Technology
63. Virchows Archiv
64. World Celamic Abstracts

（情報サービス課　電子サービス係）

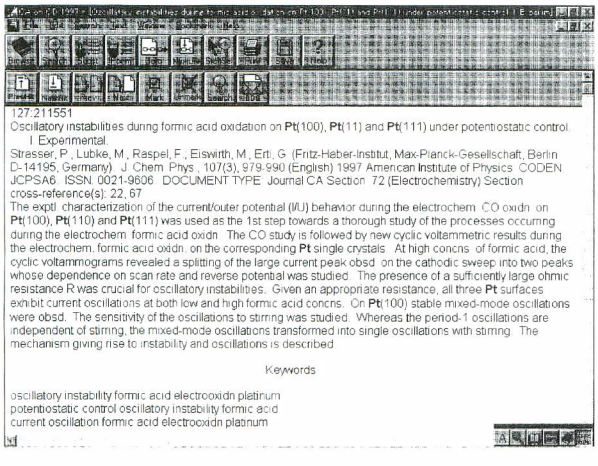
# ネットワーク対応 CD-ROM サービスの再開と追加のお知らせ

附属図書館では、現在、複数のネットワーク対応CD-ROMをサービスしていますが、このほど次のサービスを再開および追加いたしました。

1．CA on CD（収録範囲　1996年～Current）

化学情報データベース「CA on CD」は、「Chemical Abstracts」をCD-ROM化したデータベースで、巻末索引を含む冊子体にある全ての情報が利用できます。

「CA on CD」においては、システム環境の変化に対する対応の遅れに伴い、一部マッキントッシュユーザーに対するサービスを中断しておりましたが、このたび当館による独自開発が完了し、従来どおりの利用ができるようになりました。お詫びするとともに、あらためてサービス再開のご案内を行っております。以前に比べ利用しやすくなった面もありますので、これまで申請を見合わせていた方々にも、ぜひこの機会にご検討いただきますようお願い申しあげます。



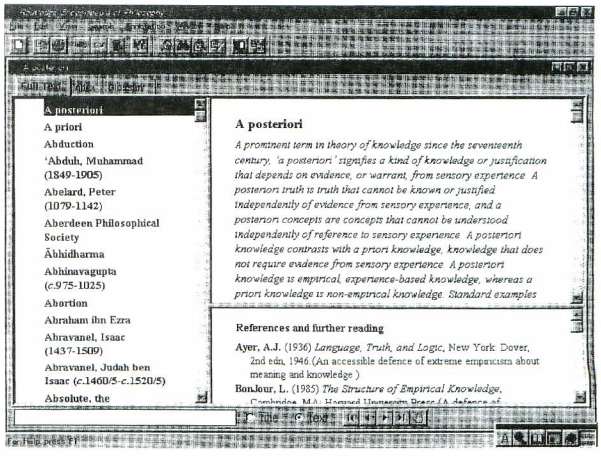

2．ラウトレッジ哲学百科事典（Routledge Encyclopedia of Philosophy）

Routledge Encyclopedia of Philosophy CD-ROM（REP CD-ROM）は、国や時代の如何を問わず、広義にわたって哲学に関する2,000以上の項目を網羅した哲学百科事典です。哲学研究者はもとより、哲学研究者以外の方々にも、学際的な調査の資料として幅広くご利用いただけるデータベースです。当館の NT サーバにより提供しています。

詳細な利用方法についてはいずれのデータベースとも、図書館ホームページの各案内ページ「CA on CD サービス利用案内」および「WindowsNTサーバ利用のしかた」をご覧ください。

また、利用に関するご不明な点は附属図書館情報サービス課電子サービス係（内線2243）までお問い合わせください。

（情報サービス課　電子サービス係）



# 人事異動

平成10.10. 1　神戸大学附属図書館情報管理課長
　転出　　山　根　文　夫
　　（情報サービス課長）

平成10.10. 1　情報サービス課長
　転入　　濵　﨑　修　一
　　（信州大学附属図書館情報サービス課長）

平成10.12.31
　退職　　福　原　勇一郎
　　（図書館事務部長）

平成11. 1. 1　図書館事務部長
　転入　　山　下　谷　治
　　（九州大学附属図書館情報管理課長）

# 本学教官寄贈著書紹介

**中山智香子講師（文・文化史学）**

シュムペーターのウイーン　－人と学問－
エドワード・メルツ著
杉山忠平監訳中山智香子訳
日本経済新聞社1998.8

**谷口絹枝（大教センター 非常勤講師）**

蒼空の人・井上信子　近代女性川柳家の誕生
谷口絹枝著
葉文館出版　1998.2

## ハイデルベルク大学へ図書を譲与

附属図書館では、指定図書制度等により複数購入した図書の再活用を図るためそれらの図書をハイデルベルク大学（ドイツ）へ譲与した。

同大学では、日本学専攻学生の教育・研究に資するため日本の図書資料の収集・整備に努めており、この譲与はこれに協力するものであり、本学においても現在ほとんど利用のない図書資料の有効活用となった。

# 日誌（平成10.9.1～12.31）

9. 10　附属図書館運営委員会
9. 22　オンラインILL申込サービス開始
10. 6　古典籍研究会
10. 20　古典籍研究会
10. 22　九州地区国立大学図書館実務者連絡会議（九州芸工大）
10. 22　防火訓練（中央館）
10. 29　新CA on CDサービス・ラウトレッジ哲学百科事典サービス開始
11. 1　講演会
11. 1～3　特殊資料展
11. 4　キャンパスクリーンデイ
11. 9～12　図書館職員講習会（京都大学）
11. 12　九州地区国立大学附属図書館人事担当事務（課）長会議（九州大学）
〃　九州地区国立大学附属図書館電子化推進事務連絡会議（九州大学）
〃　九州地区国立大学附属図書館事務（部・課）長会議（九州大学）
11. 17　新IRシステム説明会（九州大学）
11. 17　古典籍研究会
11. 30　九州地区医学図書館協議会（福岡大学）
12. 8　附属図書館運営委員会
12. 11　薬学図書館協議会（長崎）
12. 15　古典籍研究会
12. 16　レファレンス・ケースDB構築検討ワーキンググループ会議
12. 17　附属図書館長候補者推薦委員会
12. 25　冬季休館（～1月4日）：中央館・医学部分館
12. 29　冬季休館（～1月4日）：薬学部分館

**編集後記**：新年の挨拶を交わしたかと思ったら、もう月が替ろうとしています。

1999年、21世紀を目前にして、今いたるところで「改革」・「再生」という言葉が叫ばれています。

大学も言うに及ばず、国際化、情報化、少子化等、教育・研究環境の変化への対応が迫られています。

今号では『大学改革と図書館』と題して特別企画を設けました。執筆して頂いた福冨情報処理課長には本当にありがとうございました。

次号も第２弾を予定しています。ご期待下さい。

熊本大学附属図書館報「東光原」（とうこうげん）※
第22号（Vol. 8 No. 1）平成11年２月発行
発行所　熊本大学附属図書館〒860-8555　熊本市黒髪2-40-1
TEL 096(342)2273　FAX 096(345)9087
HP　http://www.lib.kumamoto-u.ac.jp
編　集　濵﨑修一・成田和則・中尾康朗
野元剛二・伊波ひとみ

※ 現在の中央館の敷地一帯が、旧制第五高等学校時代東光原と称する運動場であったことに由来する。